

平成30年9月3日

北九州市立上津役中学校

校長 森 隆

No. 5

平成30年度 上津役中だより

いつまでも残暑が続く毎日ですが、保護者の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。さて、長い夏休みが終わり、新学期が始まりました。生徒の皆さんの夏休みは、いかがだったでしょうか。規則正しい生活で、充実した夏休みを過ごした皆さんは、苦もなく2学期の学校生活にスムーズに入れると思いますが、それでも家庭で過ごす生活より緊張感のある学校生活になると思います。心機一転、気持ちを切り替えて、頑張りましょう。

夏休みに入って、頑張った部活動の大会やコンクール！

◇ バレー部

7月21日、北州市立総合体育館で、男子・女子共に【緊迫した試合(下)とやりきった表情(上)の3年生】市内大会が、行われました。

男子は、3チームの予選リーグで、柳西中・若松中と対戦しましたが、2敗し決勝トーナメント進出を逃しました。最後の若松中との試合は、フルセットの末、惜敗しました。区内大会ではチーム一丸となって闘っていただけに、その勢いで勝ちに臨んだ大会でしたが、力及ばず敗退しました。しかし、3年生の部員5名の内、小学校で経験した生徒が上野君だけだったことを考えると、ここまで勝ち進んだことは、素晴らしいです。

また、女子バレー部は、3チームの予選リーグで、守恒中・飛幡中と対戦しました。2試合とも敗退しましたが、初戦の守恒中では、フルセットで接戦の末敗れました。男子と同じように、3年生4名の内、小学校での経験した生徒が柳橋さんだけだったことを考えると、守恒中をよく追い詰めたと思います。最後まで諦めない強い気持ちで闘っている生徒たちに感動しました。



◇ 演劇部

7月28日、ウェルとばたで、「北九州市中学校合同発表会2018」が開催されました。篠崎中「時間泥棒」、広徳中「カ・ラ・フ・ル」、則松中「人形館」、そして上津役中「サケと子ジャケの唄」の4校が上演しました。どの作品も練習を積んできただけに素晴らしい作品となりました。特に、本校の作品は、サケが子孫を残すために、一生をかけて自然の厳しさと闘う美しさをコミカルに演じた素晴らしい作品でした。サケは、美しい川の上流で、きれいな湧水に抱かれて誕生します。そこを故郷として川を下り、広いオホーツク海を回遊し、大人のサケとして成長していきます。そして、サケは大海原から生まれ故郷である川の上流を臭いでかぎ分け、登っていきます。その間に大変な苦勞をしながら登りたどり着いたとき、

産卵し、新たな生命を誕生させます。それを終えたとき、サケの一生が終わるのです。その過程を分かり易く、コミカルに、感動的に演じたのが、本校の演劇でした。私は、子孫を残すためにけなげで、死にもものぐるいで大自然と闘うサケの一生に心を打たれました。優勝、準優勝の賞は、もらえませんでした。心を動かされる素晴らしい演劇でした。感動をありがとうございました。

【1段目と2段目は劇中の迫真の演技。3段目は最後に「手のひらを太陽に」を合唱し、感動のフィナーレ！】



◇ 女子剣道部

7月30日、久留米市立みづま総合体育館で、県大会(リーグ・トーナメント方式)に出場しました。

3校予選リーグの初戦は、新人戦準優勝の黒木中でした。5人の勝率は、2分け3敗で敗戦しました。次の対戦は、古賀中でしたが、1分け4敗の完敗でした。県大会のレベルの高さを見せつけられた試合でした。しかし、本校の5人のメンバーの内、小学校の頃から始めたのは、先鋒の衛藤さんだけで、後の4人の3年生は、中学校から剣道を始めています。このメンバーで、市内準優勝を勝ち取り、この高いレベルの県大会に出場できたことは、快挙と言っても過言ではありません。彼女たちは、この経験を生かして、今後の人生に役立ててくれるものと信じています。

また、このチームを指導して下さった上津役小学校の筒井校長先生はじめ、秦先生、松村先生、大村先生に心から感謝します。そして、区内・市内・県と応援してくれた1・2年生の女子剣道部員、男子剣道部員、保護者の皆様の多大なる応援に感謝します。

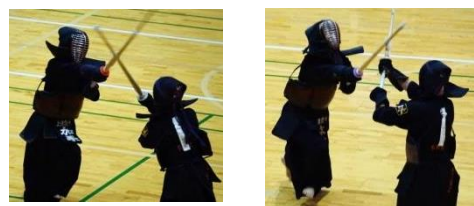
◇ サッカー部

8月4日、穴生中学校で、「第30回福岡県ユース(U-15)サッカー選手権大会 代表決定戦」が行わ

【橋田(左)・河野(右)さんの面打ち】



【加来(左)・末次(右)さんの踏み込み】



【剣道部が一丸となり、最後の大会を応援！】



れました。本校のサッカー部は、福岡県北九州支部の10チームのリーグ戦でDグループ2位となったので、Cグループ1位の本城中と対戦しました。この試合に勝てば県大会予選に出場、敗れば3年生は最後の公式戦となる状況でした。それだけに、中体連の夏の区内大会が終わって夏休みに入っても、3年生は毎日暑中、しっかりと練習してきました。結果は、後半に2点を奪われ、0-2の惜敗でしたが、最後までがんばり続けたプレーに感動させられました。私は、35℃を超える猛暑そして炎天下の中、勝利のために諦めず必死に走り続けた3年生に、伝えました。「必ずこの努力は無駄にはならない。よくがんばった。このことは、必ず後の人生に生きる。ぜひ、生かしてほしい。」と。それを信じて指導して下さった近藤先生と水田先生、そして保護者の方々に感謝します。

【負けて悔しがる表情の裏に、真っ黒に日焼けして、汗まみれになって努力してきた充実感が感じられる】



◇ ボランティア部

【新聞紙を広げ、おにぎり作りの準備】



【火起こしを手伝い、見守っている様子】



8月4日、ボランティア部が上津役市民センターで、恒例の地域行事「そうめん流しと飯ごう炊さん」のお手伝いをしました。地域の方が小学生にそうめん流しや飯ごう炊さんの仕方を指導する時に、アシスタントとして活躍しました。また、そうめんやおにぎりを作る準備として、長机や新聞紙を並べたり、飯ごうに塩を入れたり、火起こし・火消しを手伝ったりしました。お昼は、地域の方や小学生とそうめんとおにぎりを食べながら会話し、楽しい時間を過ごしました。地域の方や小学生と触れ合う良い機会になりました。

また8月7日、大原市民センターで、けやき児童クラブ主催の夏休み交流会「うどん作り体験」に参加しました。中学生も初めての体験でしたので、指導して下さる講師の方の指導を受けながら、小学生と共にうどん作りを楽しみ、語り、地域の方や小学生と楽しい時間を共有しました。

ボランティア部の活動は、試合の勝ち負けを競って必死に頑張るものではありませんが、人と人が触れ合って心が温かくなり、成長できる有意義なものだと思っています。

◇ 合唱部

8月8日、福岡市民会館で、「第85回NHK全国音楽コンクール 福岡県コンクール」が行われました。上津役中学校合唱部は、指揮者「佐藤かおる」先生、伴奏者「花田桃佳」さんと、課題曲「Gift」と自由曲「女声合唱曲集『妖精の市場』から妖精の市場」の2曲を歌い上げました。美しい歌声はもちろんですが、声量と迫力のある合唱で、大勢の観客を魅了しました。特に自由曲では、歌に合わせて全員の身体が揺れ、全身全霊で魂を込めて歌っているように感じました。合唱の時間は、わずか10分間でしたが、心か

ら感動しました。

【合唱が終わった後、充実した気持ちで明るい笑顔を見せてくれた】



◇ ダンス部

8月14日、福岡市民会館で、「第6回全日本小中学生ダンスコンクール 九州大会」が行われました。中学生の部は、21チーム出場しましたが、ほとんどが各地域で結成されているクラブチームで、上津役中学校のように正式な部活動としてダンスを行っているのは、2校だけでした。他のチームはクラブチームなので、派手な衣装とメイクで、動きも斬新な動きがみられました。しかし、上津役中のダンスは、25名の大きな動きと大胆な隊形移動があるので、非常に迫力のある素晴らしいパフォーマンスでした。銅賞ではありましたが、新聞に掲載されていたので、紹介します。

レッツダンス！ 小中学生が躍動

福岡市民会館で14日に開かれた第6回全日本小中学生ダンスコンクール（朝日新聞社主催、キュービー協賛）の九州大会に、県内からは小学生部門に14チーム、中学生部門に16チームが出演。3チームが金賞に輝き、いずれも全国大会への出場権を得た。

福岡で全日本コンクール九州大会

銅賞だった北九州市立上津役中の「上津役中学校ダンス部」は1～3年生の女子25人。3年生で部長の有働美咲さん(15)は「みんなが一つのことを思い描いて表現できるのがダンス」と話す。披露したダンス「Confliction～私たちの感情～」は、振り付けや選曲まですべて自分たちで考えて作りあげた。活動的な一方、不安や悩みを抱える思春期のもやもやを表現してみせた。



銅賞を受賞した「上津役中学校ダンス部」
＝いずれも福岡市民会館、河合真人撮影

《平成30年8月15日(水)、朝日新聞
朝刊より抜粋》